

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101488		
法人名	株式会社ライフセーバーコーポレーション		
事業所名	グループホーム ミントとやま(1F)		
所在地	青森県青森市赤坂1丁目12-11		
自己評価作成日	令和6年8月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和6年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>◎人生の最期まで安心して生活できる。                  ・利用者の思いを汲み取る力に長けている。                  ・医療との連携が十分取れており、ターミナルケアのスキルに長けている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは開設時から町内会との交流に積極的に取り組み、地域住民にもホームのことをよく理解していただいている。                  職員は常に利用者一人ひとりの尊厳を大切に、愛情を持って接することを忘れず、日々のケアに取り組んでいる。                  また、ホームでは訪問診療や訪問看護の協力を得ながら、利用者の健康管理を行い、変化の早期発見に努めると共に、状態に変化があっても、希望があれば住み慣れたホームで暮らし続けられるよう、看取り介護にも対応できる体制を整えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が地域密着型サービスの役割を理解しており、それに基づいた理念を作成している。また、カンファレス時等、折に触れて、理念の振り返りを行っている。	地域との交流を持ちながら、自分らしい暮らしを続けていきたいという思いを込め、ホーム独自の理念を作成している。理念は玄関に掲示している他、カンファレンスや申し送りの時等にも確認し、理念に沿ったケアが実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内の行事の際に声をかけてもらっている。夏には子供ねぶたがホームに立ち寄ってくれ、利用者の楽しみとなっている。また、ホームでは廃品回収等、可能な範囲で協力している。	開設時から地域住民との交流を大切にしており、ホームのことを理解していただいている。ホームでは、向かいにある公園で行われる町内の夏祭りに参加したり、子供ねぶたがホーム前で囃子を披露してくれる等、地域住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各学校からの実習生を受け入れており、認知症について様々な面から指導している。その際、利用者のプライバシーには十分に配慮し、学生から書面にて誓約書をもってしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の状況やサービスについて、具体的に報告している。また、町内や行政に関する情報収集を行うように努め、サービスに繋がるか検討している。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの現状や行事・避難訓練等の活動報告の他、自己評価及び外部評価結果等を報告している。メンバーからは、町内会や感染症に関する情報等をいただいております。ホームの運営等に反映させるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、地域包括支援センターの職員が参加しており、取り組み等を伝えている。いつでも相談に乗ってもらえるよう、良好な関係を築いており、協力関係が構築できている。	地域包括支援センターの職員は毎回、市の担当課職員にも年1～2回運営推進会議に参加いただき、ホームの状況を理解していただいている。また、制度に関する疑問等がある時は、電話で確認する等して、課題解決に向けて連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや指針を作成し、定期的にホーム内で研修を行っている。また、定期的に身体拘束廃止検討会を開催している。外部研修にも積極的に参加させたく、シフトも調整できる環境である。	身体拘束のマニュアルや指針を作成し、定期的に内部研修を行って理解を深めている他、3ヶ月に1回委員会を開催し、議事録を全職員に回覧している。ホームでは身体拘束は行わない姿勢で日々のケアに取り組み、玄関は夜間以外施錠せず、外出傾向を察知した時は一緒に散歩する等している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに沿って、定期的に内部研修を行っている。また、職員間でお互いに目を配り合い、何かあった場合は注意し合える関係作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ここ近年、研修に参加できていないのが現状である。それでも地域包括支援センター職員と良好な関係を築いており、すぐに相談できる体制になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間を取り、理解していただけるまで説明を行っている。また、説明後は同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に掲載し、入所時に説明している。苦情があった場合は、速やかに解決できるよう、マニュアルを作成している。	職員は利用者にはこまめに声がけし、些細な意見も聞き逃さないように心がけている。家族には毎月ホーム便り等を送付して利用者の状況を報告し、面会時や電話連絡時にも意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から話しやすい関係性を築くよう、コミュニケーションを取っている。カンファレンス等において、職員から出た意見を計画に反映させたり、代表者にも伝えている。	月1回のカンファレンスでは、新しい入居者の受け入れや日常のケア等について、自由に意見交換を行っている他、気づいた事があれば、業務の合い間等にも職員同士で話し合ったり、管理者に相談できる環境である。また、年1回程度、管理者との個別面談もあり、職員の意見を業務に反映させ、働きやすい環境を作るように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者に、職員の努力等を報告している。また、施設の経年劣化に伴い、ドア等の不具合が生じた場合は、すぐに改修を依頼して整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で研修の年間計画を立てており、参加できない職員には伝達研修を行っている。また、職員の意欲等を汲み取り、資格取得の費用を会社負担にて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時折、他グループホームの管理者と法改正後の新加算や、コロナ明けの面会等について、電話にて話をする機会を設けている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問い合わせや見学の際は、本人の状態把握に努めている。入所に至る場合は、必ず入所前に本人との面談を行い、インテーク用紙等に記入している。また、職員間で情報を共有し、チームケアで本人に安心してもらえるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた段階で、十分に時間をかけて家族の話を傾聴している。入所決定後も、入所するまで何度も連絡を取り合い、不安等を聞き出すように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、十分に聞き取りを行い、ニーズを把握して、ホームで「できる事」「できない事」を伝え、できる事からスムーズに支援に結び付けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を観察し、できる事を見い出して、共に支え合う家族のような立場で励ましながら、良好な関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ、電話にて連絡をしたり、ホーム便りで近況を伝えている。それにより本人の状況を共有し、良い関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時のアセスメントや日々の会話で得られた情報を、職員間で共有している。また、電話の取り次ぎ等を行い、馴染みのある人との交流を継続できるように支援している。	面会の際は事前に電話をいただくようお願いし、それぞれの居室で、ゆっくりと過ごしていただいている。また、電話の希望があれば、子機を利用して居室でゆっくりと話ができるようお手伝いし、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握するように努め、職員間で情報共有をしている。それらの情報を基に、必要に応じて職員が介入し、良好な関係性を継続できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどが看取りで亡くなったの契約終了になっているのが現状である。退所時に、他の家族で高齢の方がいる場合は「何かあったらいつでも相談に応じる」旨を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、可能な限り利用者の話を聞くようにしている。難しい場合は、表情やしぐさ等から、本人の状況を把握するように取り組んでいる。	日々の会話から、利用者の思いや意向を把握するように心がけており、時には居室に行き、1対1でゆっくりと話を聞いている。また、職員同士で気づきを話し合ったり、面会時や電話連絡時に家族からも情報収集し、利用者の思いを把握できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係機関等から十分に聞き取りを行い、把握に努め、全職員で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに十分に目を配り、把握に努めている。また、それらの情報は、職員間でしっかりと共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	なかなか意思を伝えるのが困難な方が多いため、本人の日頃の様子等から要望を推測し、都度、家族からの意向や要望も確認している。それを基にカンファレンスを行い、職員間で話し合い、利用者本位の計画を作成している。	前もって利用者や家族から意見を聞いて記録に残し、職員や訪問看護師の気づきも参考にしながらカンファレンスを行い、個別具体的な介護計画を作成している。6ヶ月の期間に合わせてモニタリングを行い、状態変化等により必要な時は再アセスメントを行い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	加齢や疾病によるADL低下や活動量の低下等、具体的に記録に残し、職員間で情報を共有している。また、計画の見直しを行い、個々に合った計画を立て、それに基づいた介護をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の際等、同行するための移動手段がない家族には送迎をしたり、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会長や民生委員の協力を得ながら、町内の行事に参加する等、楽しみを見出して、豊かな暮らしを送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医について確認し、入所後もスムーズに医療を受けられるよう、医療関係者とも良好な関係を築くように努めている。	ホームでは2週間に1回、訪問診療を利用できる他、希望する医療機関があれば継続できるよう、職員が受診に付き添い、必要時には家族にも同行していただいている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間いつでも対応してもらえるよう、契約をしている。職員が症状を具体的に看護師に伝達できるよう、職員間の情報共有をしっかりと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院へ行き、関係者と情報共有をしている。また、主治医や訪問看護師とも連携し、早期退院に向けて話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、指針やマニュアルを基に十分な説明を行い、同意書に記入してもらっている。状態の変化について都度説明し、実際、終末期になった際は、主治医からも家族へ説明してもらっている。職員間で情報を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	入居時に本人や家族へ、指針に基づいてホームの方針を説明し、同意書に署名をいただいている。入居後の状態変化に応じて、随時、主治医や家族と話し合い、連携を図りながら看取り介護に取り組む体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、定期的に内部研修、伝達研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定した避難訓練を行っている。また、運営推進会議の際に避難訓練の報告をし、地域に理解と協力をしていただけるようお願いしている。	年2回、避難訓練を行っており、運営推進会議で報告すると共に、民生委員を通して、いざという時に地域住民から協力が得られるようお願いしている。設備点検は年2回、業者委託で行っている他、災害時に備えて、飲料水や食料、寒さをしのぐ物品等も用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者を「さん」付けで呼び、否定せずに話を聞くようにしており、ホームの理念に掲げたとおりに、尊厳を大事に支援している。また、日頃から個人情報の取り扱いについて十分に注意しており、プライバシーに配慮したケアを行っている。	理念に沿って、職員は利用者の尊厳を大切にし、一人ひとりの思いやペースに合わせたケアに取り組んでいる。年間の研修計画では、接遇やプライバシー・個人情報の取り扱い等に関する内容を組み入れており、不適切と思われる対応があれば、管理者が状況を見ながら、職員に気づきを促すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密に取り、声かけの工夫等により意思表示できるように努めている。言葉で表せない方は表情等を読み取り、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間の申し送りを徹底しており、利用者のその日の体調を考慮して、表情や言動等からもその日の状態を把握し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に衣替えをし、季節に合った物を準備している。汚れや乱れに対してはさりげなくサポートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握し、代替品で対応する等、柔軟な対応をしている。また、利用者の希望があれば、メニューが決まっても変更し、希望する物を提供している。職員は可能な範囲で一緒に食事をし、さりげなく食べこぼしのサポートをしたり、会話をする等、食事の時間が楽しいものとなるように努めている。	近隣住民からの差し入れ等も食事に取り入れ、禁忌食や嫌いな物には代替食を用意している。また、節分や敬老会、大晦日等は手作りの行事食も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂取状態に合わせ、食事形態を工夫している。また、食事量等を記録し、全職員で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアのサポートをしている。その方の能力に応じて、それに合わせた介助]を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を活用して排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行い、失禁の軽減に努めている。また、その際の声がけも、羞恥心に配慮している。	立位保持が可能であれば、できるだけトイレでの排泄を支援している。また、体調や身体状況に変化が見られた時は、随時、介助の仕方や排泄用品の変更等について話し合い、利用者や家族の意向を確認し、その時々状況に合わせた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維が豊富な果物等を提供する等、個々に応じた対応をしている。また、散歩に出かける等、体を動かすように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は個別に行い、基本的に週2回入浴できるようにしており、利用者一人ひとりの希望に配慮して、順番や入浴方法を工夫している。また、入浴の拒否がある場合には、声かけや職員を変える等し、できるだけ入浴できるように働きかけている。	利用者の体調や気分、お湯の温度へのこだわり等にも配慮している他、拒否がある時は声かけを工夫したり、対応する職員を替える等して、週2回は入浴できるように支援している。また、利用者の羞恥心に配慮し、1対1の介助を基本としているが、立位や歩行が不安定な場合等は職員二名で対応し、安全に入浴していただけるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のその日の体調や状況を見極め、一人ひとりに合った休息を支援している。また、夜間の良眠に繋がるよう、日中の活動内容の見直し等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全利用者の薬を把握できるよう、個々の薬箱に処方箋を入れて、いつでも目を通せるようにしている。また、薬の変更の際は、申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時、十分に聞き取りを行い、得意・不得意を把握して、得意分野を発揮できるように場面設定をしている。(歌、踊り、家事作業等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を考慮しながら、近所へ散歩に出かける機会を設けている。	天気の良い日は近隣を散歩したり、ホームの庭に植えた花や野菜を見る等、戸外に出る機会を設け、利用者の気分転換を図っている。外出行事は少人数のグループに分けて行い、利用者が以前訪れた場所等を聞いて出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ホームでは立替えにて物品等を購入している。入所時、家族から同意書をもっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は取り次いでいる。その際、周囲に気兼ねすることなく会話できるよう、居室へ誘導している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンを駆使し、温湿度計にて快適な空間を提供できるように努めている。また、季節の花を飾り、季節感を出している。	窓から見える景色で季節を感じるができる他、ホーム内の壁にも、季節に合わせた折り紙や塗り絵等を飾っている。また、テレビ等の音量は適切で、職員の話し声や作業音も穏やかである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや一人掛け椅子、テーブルの配置に気を配り、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物を持って来ていただくように働きかけている。また、利用者一人ひとりのADLや好みに合わせ、過ごしやすい居室作りに努めている。	入居時に、家で使っていた物を持って来ていただくようお願いしており、衣装ケースやテーブル、掛け軸等が持ち込まれている。また、入居後も利用者と担当職員とで相談しながら、誕生会でプレゼントされた物を飾る等し、居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、随所に手摺りを設置している。また、常に利用者のADLの見直しを行い、状態に合わせた対応をしながら、安全に過ごせるように努めている。		